

「生天光手記」：沖縄の宗教的世界（2）

安達，義弘

<https://doi.org/10.15017/2328545>

出版情報：哲學年報. 46, pp.105-148, 1987-02-28. 九州大学文学部
バージョン：
権利関係：

「生 天 光 手 記」

—沖繩の宗教的世界—(2)

安 達 義 弘

はじめに

ここに紹介する資料は、筆者が先に、『哲学年報』第四十五輯（九州大学文学部、昭和六十一年）に掲載した「生天光手記」の続編である。今回の「生天光手記」Ⅳは一まとまりとして綴られていたものであるが、書かれた年代は先に紹介したものよりも新しいようである。ただ、内容的には多少重複している部分もあるので、細部の検討は今後の分析に譲りたい。「生天光手記」に関して筆者が入手できたものはこれが全てではなく、まだ未紹介のものが残っている。いずれ機会があればそれらも紹介したい。

なお、この「生天光手記」の分析に関しては『宗教研究』第六〇巻第三輯（日本宗教学会、昭和六十一年）にその一部を発表した。

生天光手記Ⅳ

(1) みはた御もんの軸と琉球安泰を願ふ歌

1 初日の出

あほぐみそらにひるがへる

(桃の実ヒョウハクひらいて生み給る)

生天光神明宮の

栄へのみはた立奉タテマツリ

七色そめて美しく

光輝く御もん軸立て

世界平和のはたじるし

自然を守ろう地球のうるをい

3 天下り

(神世御光世界に照らす)

道の御開きおひろめの

天地人を愛むすび生み

国宝人類栄へ①

めぐみ玉 (人生) 心明るく



生天光神明宮道の光

2 日の元の本

(卯年の御光)

世界を照しもろ人に

神世の尊き御教への(給わる)

生命たんじよう一切の

よろづのすがた現せり

尊き高き神の御恵を

世界平和のはたじるし地球を豊かに

神の(自然) (刊誤不明) の)

生させ給ふ道光

世界平和のはたじるし

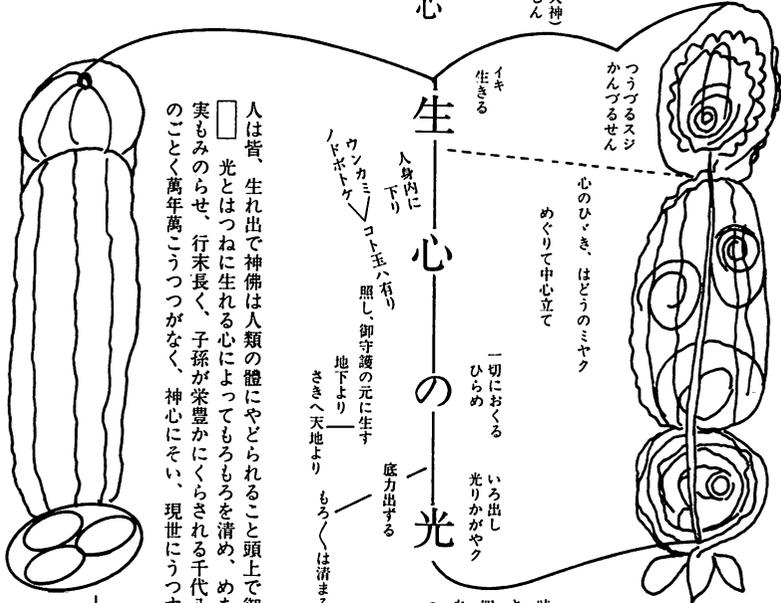
さ、皆なで平和の祈り

さ、げてく地球を守ろう

天人地中心

おさまる
めぐる
太陽神
天タイニテ
地下
アミダ
ニヨライ佛に
佛に

リウジニ神
タカミススビ神
御天神
カミムスビ
御天下大神
アマノミナカサ
アマツヒツギ
天照大神(天下大神)
太陽神(おんじん)
神々は
生れる



人は皆、生れ出で神佛は人類の體にやどられること頭上で御守
光とはつねに生れる心によつてもろもろを清め、めをふき生、若々と心の中心を保ち、人生に花も
実もみらせ、行末長く、子孫が栄豊かにくらされる千代八代の道の光をともしあらたまる、年々の若葉
のごとく萬年萬こうつつがなく、神心にそい、現世にうつす御かゝみの光を給わる。

五體大神の御守護
道の光玉開き

時々
キセツとともに開く
四きの初しきさい
自然のほうそくと
つなぐれ、照しめされる

かんじゅうせん(かんのふ)
一切のひびき
人身にうつじる
めぐりく
中心立つ

はどののミヤク
シビレル・ダレル
カユミ)心に
イタミ) つうじて
タルシミ) 人身に
タノシイ) あらわれる
ワレシイ) 一切のこと
カナシイ)

カワイイ
アイ ニクシミ
ウラミ
カラミ
インシヤ
インネン
インクワホウソク

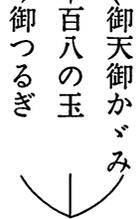
一切の道しるべを開きしるす
天タイニおいて、太陽神となり
もんじゅう
人身にて、底ヨリわき出るはんせい力めぐるちえ
地下において底を照し
もんじゅうとは一切をつうじる一切きとり開
佛 □ ホサツなり

(4) 生天光神明宮

世界に照す天地人の道光神話集

琉球うるま島の竜宮城の旅

神の



世の初め国立てる時の道の開き、古代ヨリこの島は神の国として尊び奉り、シマビト島人は、つねの信じあつく日夜神たぐ

のとほりにくらしをいとなみ、つゝしみぶかく、神礼儀を正しくおこないを致し、現在にいたるまでつゞけ、御先

祖代々よりつたわる一切の神所お参りを致し、現在の沖繩のはつてんを見ることが出来た民、すなはな心を、神は、

天地より御しつらえあそばされ、今年のすばらしい竜宮城開きを、古代ヨリ竜宮竜神を奉る民ぞくに世界の中心た

るぎようじを司さどらしめ給ふた事は、神の御自然なる御恵と御けいかくの道のしるべであり、天下つて自然↓古代国

サンシユウの神（百八）き

つるぎ

開く、はこぶ、清める

切り開く、

もろもろのわ（わ祝カ）ざいをさる

まが玉は

世界ムスピ

のゆえなり

玉は百八心玉



地球

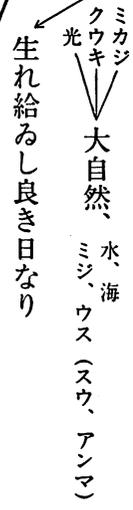


（か祝カ）みかみは、天地人を照しうつつ

現世の世相、平和など

先祖代々王国の百八の玉の開を致される。百八の玉のゆえんは、まが玉のムスピ6と、玉合せ、一年、めぐりの心玉とほしてムスピ世界人の心玉萬年萬こう糸ムスピ、えんの御開き、さんごの島うるまの国に開かれる

(5) 世の初 天下大神世御教へ神託あり



御水、自然ごう↓天下大神 (天照大神)
 (家庭ならさんしつ)

年こうは

いく世にも有り

先の世、中世、後世、

現世

沖繩全ムスビ神

日の本である

世界のムスビ

デ有る

ヒク神託は、光主、自分が古代の神代の時代にかへり

受けた時「コトサンシヨウ」初、目を開く、光がさす

次にアマノイワトノセツメイ (古代自然岳ごう)

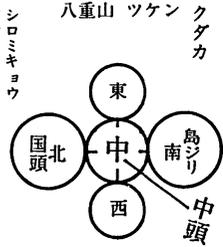
次に人體の名シヨウとともに関く

次に小供三名生む 天なる光子

次に小供をつれ
 右、男子 左右に手を取り
 左、女子 大神の御所に

イベガナシイ

世の初であるがゆへに
 光と言ふ、光とともに
 言葉を給ふ
 イタミ
 カユミ
 ダルミ
 フシアシーカンセツ
 シンケー働き
 ニガミ
 カラミ
 アマミ
 イ、シヨク、住ともに
 玉玉を開き
 御教へ給ふ



次に神世は沖繩国を

一しゅう給われたとの事

天下めして □ めぐる

次にかへり来りて御子をつれて

東アガリ 女子

西イリ 男子

ねかせる



古代ムカシ—リクツナギト御教へ有り

イワガ有りオコ(御子)をリウ手に岩石に入る

ウゴキ、亀のコウで有ったとの事、東世は生シヨウ地シヨウジで有り、
 亀につれられて行けば、島々につき、めぐり島々の名シヨウを
 開かれながら、伊セ(伊勢)に下りて日向に向ふとの御事を神託有りて、
 二十年前光主は、家庭の天岩戸にて、一切をさとり、今日の生
 天光神明の道の光を給わる事なり。

大自然を尊びウヤマフ
 事にて、一切は自然の
 御下し物である
 生命の中心御親神である

(6) 初天下大神よりの御教へ

生天光神光主開き

ヤケ名の東方に有る浜比嘉島の地けい、浜のアダンの木々を天空に現されシロミキヨウ、アマミキヨ神の御所を御さとし給われ、百八ダンのかいだんを見ることゆめうつつの間に御教へ給われし御事、天の岩イハとほおしホひらきヒ母神頭上に現われめして光主の頭かしらぶをもち上げ天分使命をしるしめして、天タイ高まが原（にた）のおはされて御守護を給わり御教へ一切を下し給ふ事、浜比嘉岳は天神地神ます御所、そこよりはるか下りて元（もと）、やケ名、やぶち島の竜宮城と神名あり、天神地神竜神まして（リウキウ）疏宮の御守護、御守あり、この所に日の出の光こうごうとテラス、生ジヨウ御所と神の御つげ御開き有り 東世と名シヨウツケ伊計、宮城、上原、桃原、平安座、ツケンの道開く所より出ずる久高島 見わたすかぎり島々の神びなる美しさ、尊き高き神所のめぐり、神話の出ずる根元なり ヤブチ神とのつながり、東大神ウイビ この御所は旧九月月は村民のたんじようをお礼致す御所なり。生ジヨウ守護ヤブチトのつながり、（母）父神と小供一のつなぎ、栄への道の光、竜宮城を

判 説 不 明

(7) 光主とは神ヨリ司さどり神と一タイトナリ光を世の人々に与へ、一切を平らに致し、萬めに御守り、心より一切をぞうか致し、道を正しく歩みをたゆまず世の中（この）のありとあらゆる道を御ひらき、御教へにひろめ、心の光をとほし神の御心と一つに致しておこない致すべき光主はつねに自分のほんのふにとらわれることなく自然にそふてどり

よく致すべし

主たる人は神の一切のつうじを開く事（こと）で有り道はひろくまとまる

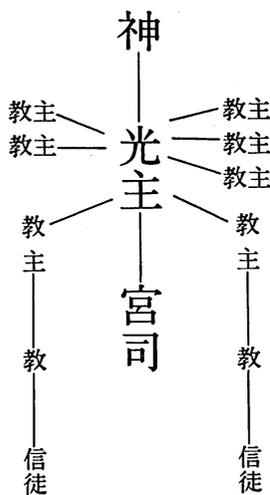
光主

中心（こ）つねに心がけはゆるる事なくいかなる時も中心保つべし 中心にあることによつて使命の道のつうじ正しくなり道は開く いばらは世のつねとなしてことをはこべば一切はとげが

とれ道開く花ぞのに実をむすぶ

光主はつねに正しく開き言葉、言玉をほうしつする事

光主はことごとくぞうかを致すことの出来る一切の力を与へて神は一タイとなり、光主にやどり、ともに一切は成り立つて居る事なり よつて神とともに生き、使命をまつとうすること有る



(8) 二十年前の事神世の御つげのもとに天分使命を知り現在において道のさとりが開られ自分の道と言ふ事の、いかに使命のじゆうだいに今さらながら身も心こゝろのひきしまる思おもで有り又や生きると言ふ事がこんなに尊くありがたい事ことで有るかをつうせつにかんじ、日夜いろ／＼と思ひめぐり、古神道の道の光をともし、世の人のため世界平和を願ひ、さらに進まねばならぬ事をつよくかんじるとともに、神御下りの時の神おつげをしるし参りたいと思つて居ます。十九才の時、私がしんだら琉球はたへてしまふと言ふあんじ有り、大阪にてせんそう中、にげながらうけた神の御言のりを今さとりが少しづ／＼かんじられる事は、琉球国沖繩の信仰の有り方、言葉のいろ／＼さとり見れば、世界中心に王国時代ヨリおこなはれて居る事は、かく字、村、国に基を立て、拜所がもうけられ、御まつり申し上げられし事ことで有り、又や、ウタキダキ、城ウグシクを中心にタテマツル奉神々の道のしるべあり なれど今やいろ／＼とくづ

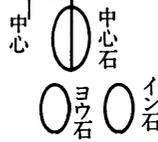
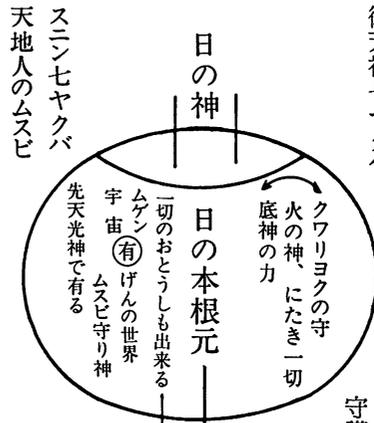
れ、基は有りても人々の心につうじがたく、おろそかにされ、今まで奉し御所もあそび場や学校、家が建てられたような神所で有りてもおろそかに致され、くづされた御所多く、そのために天分高き人々につうじが来て居る事も有り、なれど天分人たちの力のおよばぬ事も有りて、現在の沖繩にてつうづる者につうじがなく、もろく／＼がしらけて居る事、の^{【御】}かんじや多く、まよい人多く、世のはらんじようたいをおこして居る事なり。よつて、どうにかして基を御教へ致しなば、いろ／＼のもやはらい清めて、現代沖繩がうるをい出し、みんながせいじうになる事を願ひ、清め、ほらい、又や神佛を尊び、御神所はてい^{【重カ】}ちうに致す事により安泰の道が開かれる事と信じる。私はこのようにして神の御しめいにより道をしるし御案内致し、光主としての御やくめ使命をはたさねばならぬ事を思ひ、つねのぎようで有る。まづ家庭ぎようじの有り方、日の神の御所のせつめい、やしきの御神のせつめい、又やいろ／＼と図にあらわし致す事によつてつね日頃よりおこなふ正しき信仰の有り方、古神道は神世の初のぎようを先祖代々につうじ、現在もなほ道しるべをしるされて居られます。神世にては天照大神は天ツヒツギをめして神世のぎよう一切をおひつぎめした事なり、人々は又、御^{【祖】}先代々よりつたわる事をひきつぎ正しくおこない保つ事によつて住み良い沖繩が造られ、神世の御心にそい、健全なる：字、村、国、身心を保ち、良き世が成り立ち、古代によつて現現在の幸をうる事が出来、生活のたのしさと生きる喜びをかんじ、人類の愛^{【利便不閉】}の道も開け、海洋博の世界にひろめる沖繩の海の色もはへ、竜神の御守護もひとしく給わる事とせう

- (9) 古神道とは根元の道知るべで有り人類の生じよう^{【事】}とこととなり、自然御親神とのつながり、地球上中心にうつしめされて居る事なれば、かく国々に^{【マツ】}まつちした神佛の有^{【マツ】}られが有り、とくに琉球古神道は、世界の神^{【マツ】}の道をしるす根元をおさとし有り、天地人をつうじてあやなす糸つなぎ、道の光を照しつゝ神いをつけ誠の実を結ばれる事なり、二十年前のおつげのなかにせいじもんだい、又や、こうがいもんだいが神世の御^{【マツ】}つげにより知る事が出来た事は西^{【マツ】}年前の事、人類^{【マツ】}々が立ちあがり、おの／＼の生命の御守りするためにははつげん力を出さねばならぬ事をしるす

(10) うるま島琉球現在沖繩の古神道の有り方、奉り方

御地神七ヤクバ
御天神七ヤクバ

一年のめぐり地球中心に立て、又や、おのゝかく家庭に年初より年おさめ、旧十二月二十四日に致され、又めぐり来る年をとる。道をしるして御守護給る尊き御光である



古代は、かまど石三つを立てまつりし事



コウロにかわり奉りし事、

【判読不明】

イ、シヨク、ジュウの守——ちち

ミカジ、クウキ、ウヒカリのフヤワシ又御光

御守護

ムビョウソクさい、家内安全一切の安泰をお祈致されて

居る、ウミチムンガナシイ

生所

□ 供物、ウチャヌク、オコメ、オシラ、シロクバン、センコウ 一ばんは

クチ

基オサケ、七かいアライゴメ、クダモノ、ハンシ

天分、ミコ

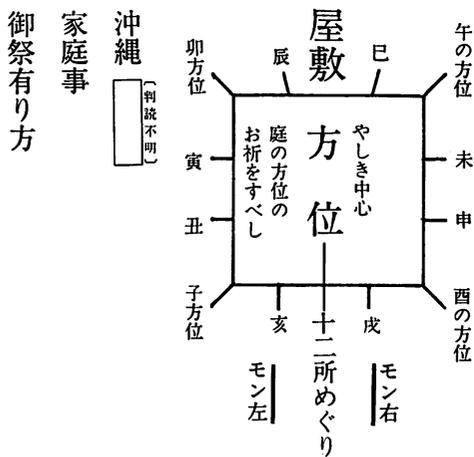
このように

よって色々たす事有り

センコウ、かく場所十二本づ、バアイニヨリおのゝ家庭によりなにと

【判読不明】

本はきまる一ばんの方



図のようにしてやしきをお祈致す事は、初お祈、元旦、旧二月（ヒガンシチ）、旧八月（ヒガンシチ）良きにてかんしやを致す事 このようにして毎年、年のめぐりとともにお礼お参り致す事によつてもろくを清め、土地やしきの守神の御恵み有り 旧十二月二十四日、一切のウシディガフウを致し、迎へ来る年のきがんを致す事なり

チイネーウムマイ
ヌウカミガナミメ
トハシルヌウカミ
ウトイチチアギテ

家造



ユハシラハハシラ立て
ムヤクヤギシテチ
ウタビミソウチ、ウニケ
ムチヤ、シビリカンヌウカミガナシヌ、ウマムイ
ウタビミメービリ、ウトウトウ
家造りのお祈

ミカヰと
アテル
月、玉、健康の光、イツミ
井戸泉
又ヤ、スイドワロ
七底、九底神地底、
人身の血えき御守護

ミフドウヌウカミガナシイヌウマムイドクルウヤミセーン



おいち、おいちよう、ぐりんぐちう御守ウマムル（ちちめぐる（地におさまる）人身では血—水
をのむ、血子造るを造り、一切人體の健康造りなり
御ふどうぬうかみがなし、御ふじよう御守護神

古代はカヤバノウグワン
現在はブロックケンチク、カワラブキ

立てグの図、家を立てた時のお祈の一切

人たいとあて一切のさよう致される事なり

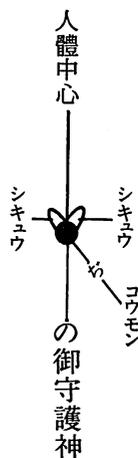
四シン
八シン
中心ばシラのお祈ムスビを致し、さらに基ほり

お祈、おいちおいちよう、ぐりんぐじやう、七スク、九

スク神のウスリ、お祈、四ハシラ、八ハシラ、中心バシ

ラ、ユカギ、サンギ、フニグミ、クミタテ一切、ムネあ

げ（シビリンカ奉る）シヂムスビぜんたいのお祈を致す
べし



人身より出る一切のふじようをおさめ所

先祖祭り

おのゝ家先祖祭をおのゝの先祖をつうじて、
 のゝもんちゆうと家ていより初めておさまる

判読不明

にしんじんをおこたりなく、お

(11) 現在沖繩に古代よりつたわる先祖崇拜（辨む）の道しるべ有り。まずおのゝ生れ出て、自分の親の御おんをうけこの世

にそんざい致す事なれば、御親の昔からのり方（脱カ）をわすれる事なくおこなふ事によりて代々につたへ後世の榮へを見

る事が出来る、沖繩で先祖のちすじを正しくつゞ事を基として現在（マ）いまでつゞがなくつゞきおこなわれて居る事、そ

して古代信仰にもとづきいろゝと守れ（脱カ）、道明るく生きて居る民ぞくなり（有）。なれど若人の方々に今や古神道の知る

べとして根元よりとき御教への出来ていないため、まよるがしようじあらわれ、ふみまよ人多（マ）。いろゝのおこ

たり（シカ）所よりふそくが出来、苦しみ居る人々有り、又や、やまゐでなきやまいにふして居る人々も多いので神世の

御しんつうはまし、人々の心に糸かけめしてすくゐのおさとしを致す事、光主つうじて古神道の知る（道しるべと光を）べをともし

開き、御教へ致します。

古神道は沖繩人だけの事ではなく世界人の道しるべとなり地球をうるをす根元で有り、一切をおさめ一切を生む

神国沖繩でしめ繩の御やくめの七色（四ダシ、セツ、九ダシ）そめてそめぬく一切の神世のそめで有る御こうの光（五じうのワユウ）

(12) うるま島に古代よりつたわる神世の御せいじ有り

(七ヤクバトハ) 神佛ノタミシヤク所、現われを出す所

人類はこのようにして生じようよりおさまりのぎようが有り、又、生れめぐるたねまきを神世の御けいかくのもとに一切はなり立ち、基として沖繩の信仰の道しるし、せつめいを□事、くわしく聞きたい方は生天光神明宮にまいる事、光主

御天七ヤクバ

地球神、地神

底 七リウクウ神

御地七ヤクバ

人類生給ふ神、生名命

スウニン七ヤクバ

その地国ツ神十二方位 ウタキダキ
ウヒガナシ

ウクニセヤクバ

佛、ボサツ、十二所、先祖代々のとこま所
くようをすべし、オハカ所

グウソウセヤクバ

七七ナンカノ道しるべのクウヨウスベシ

五グウジヨウセヤクバと名シヨウツケテ一切を現世にうつされし神佛のおさめ開き所の神佛のます大自然の道の光を世界信仰の光ともされ、この世は成り立つ事をするし、神司人、佛司人にっせにより御教へを致されし事なり、よつて、五じようセヤクバとは、一切を生みそだて、生イカされて居る御守護神で有られる。現世に有るだけは神世つうじ、神世の御心に叶「え説か」られし事は幸いな

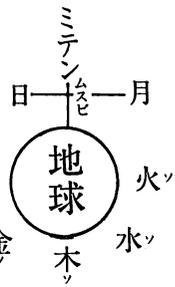
り、叶はぬ事は道をはづれた事としてかゞみにうつり、おこな

い事によつて現われる世で有るがゆへに、つみ、けがれはおのくのの清めによつてきえ、はれるもので有り、おこないによつて一切は【毎成さ】ことなる

日月火水木金土

一しゆうが七ヤクバトアテル

五じよう七ヤクバ



火水木金土
五ツの(ソ)
有る

おのく
ソウ

星守護神にかんしやする事

人體とその人心のあり方

ヒトソレソレソレが有る、人内の(ソ)と言ふ、生れ天分ソしつ、くわしき事を知りたい方は宮までまいるよふ

(13) うるま島、琉球、沖繩と名しようづけられた竜神【ウリツツシ】

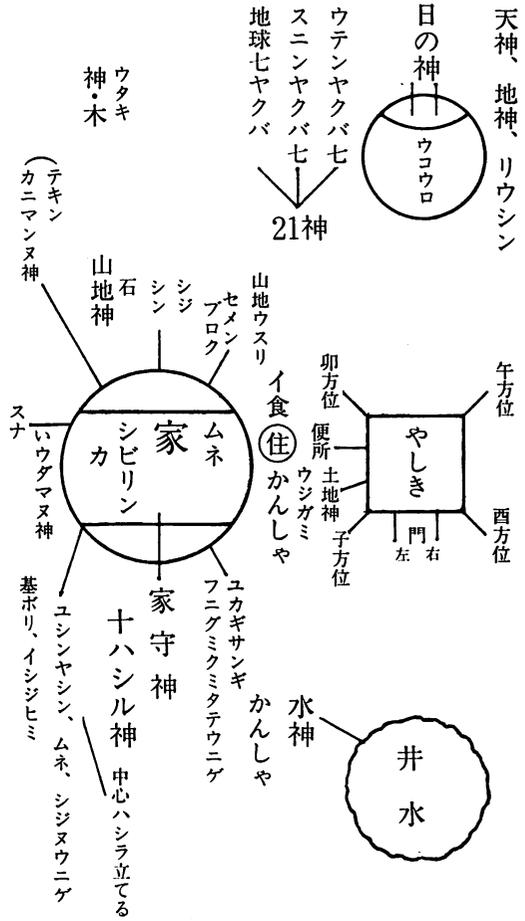
古代沖繩の信仰の道の光

おのくの道の開をしるして御先祖様の基立つ所

家庭にて立てまつる日の神をつうじてかぞくの一切のお願致される。生命たんじよう

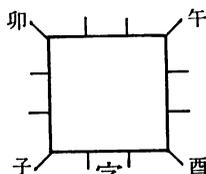
星お祈、御名づけ、先祖の一切のお祈

「生天光手記」

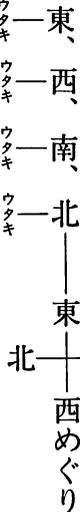


字にて、

ウジガミ神

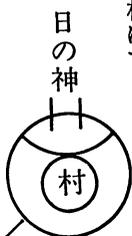


字内の神所十二所とは、



井戸—ウタキ—井戸—ウタキ—井戸—ウタキ—井戸—ウタキ—井戸—ウタキ—井戸—ウタキ

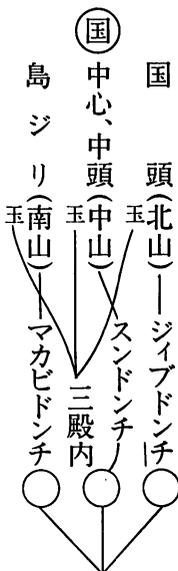
村にて、



ヒツル イベガサシ
 八シン、十二所と言ふ
 その他の御所お参りを字、四シン、

五カムスビは五カ村と言ふ。四カムスバレタ所も有る、四カ村と言ふ。六、七
 村を一所にムスビまわされた村もある、三字ムスバレタ所は三家と言ふ。

現在はムスビガオコタツテイル村も有るゆへイロくと道しるべをひつようと
 致されて居る事、お礼、ほうこく致されて居るものなり。



首里に立つ

お礼、ほうこくほう年のきぐわん生命の

東—ウマ年—ナチジンメグリ西をとつなぎお礼

致し年ぎようじ

サンクク

判読不明

判読不明

図のように古代沖繩王国はキリツ正しく家、字、村、国、世界と目の前よりだん／＼に一切のお礼お参りを致し、
いつのようにも御先祖の足あとをたどり、手^{御教へを}がたをまくらにして基くづさづに現在もなほおこないを致し居つゞけ
て居り、^{かため}又やこの一切のおこないは天地人のムスビで有るがゆへに、世の初神天下りめして国々の立つる事をお
初^{マツ}天子天孫を御生み給われ現世に子孫を御ひろげ給ふ、御子を国々の司にめされ、国十二方位（ウタキダキ、国
司を生み、神司給ふ事）、国開き地球のめぐりとともに国めぐり神世の道のしるべを下し、しるしめして^南東^北西
世界のかく国々に神の子を生み天分使命をさづけ、司を立てめされし御事と、東洋西洋のムスビをさとされ、南き
よく北きよくの道もしるされ、地球人類のそんざい致す所をうるをし、一切を神世の御恵と生命のたんじやうされ
た事をムスビ、宇宙自然のほうそくと合せ、こと初ことおさめなり立ち中心を立てめして、国々の^{ウタキダキ}
（^{リウキガミ}）この^{マツチ}
ようにして世^{ゼンコ}国々（ウガンシヨ、宮拜み、お宮、お寺ジユンパイ）神々を御下給われ、かく国々にまつち致したお
祈を棒げ立奉る事、司人の天分によつて御教へ致される事、沖繩では、この図のようにしるし、信仰致され、古神
道を根元として御教へ開き、生天光神明の御つげの御心のもとに一切の御開き御教へ致し居ります、光主

天地

天七、地七、人七—合せて二十一

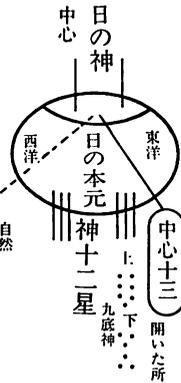
人手、足、ユビ—合せて二十一

御地神七世

御天神七世

御底神七世

右手 ユビ
左手
世界四チン
天地人



ウシカミ ノドボトケ
頭カミ のど佛ケ

御神—御佛
一タイの御守神

三〇人身
21

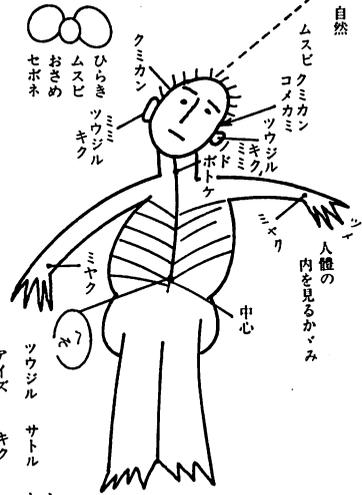
人體のこうぞうと

の(腦)のど—みぞおち—おへそ—

自然のさよふ

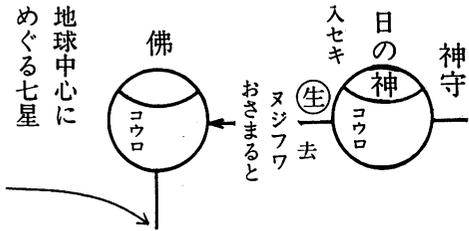
(六コツ)六根、フシフシ

一切はの中心(腦)に—シンケ ツウジル—キク、ミル、ニライ、カ



箱蓋不明

- の(腦) — アイズ
 - 耳 — キク
 - 目 — ミル
 - ハナ — スキイキ
 - 口 — こと玉
- 中心 — 一切はセイリツ



(14) 沖繩に宮寺の道の光をとまされたのは、生もつ人は一切は神の御ぼしめしどうに生うき、一生ををへた時は佛におさまる事ことを世よのななので有あるがゆへに、神佛をまつり、年としぎようじのじゆんばいとして信じ、沖繩の家造、おののつねの道として神佛をはいし奉るしうかんづけられし事なれど、世がひらけしだいにあらゆる教への道が開かれて、教へ方、又や人心のむちなる所からあれこれまよる多く、現在いまはむつかしくなつて居る事なれば、神世の御心こころのあまり御教へ致いたさる事ここにしるすので有ります。

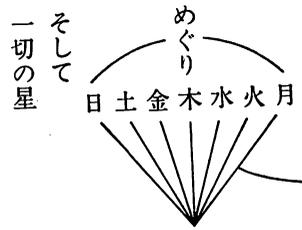
(15) うるま島沖繩につたわる生命と星と御名つながりをもつてなされる道しるべ古神道の道しるべは根元である神佛のつながり、古代ヨリつたわる（年としウスウコウ）一切の年としぎよう事、御（御名不明）を（しるす）しるす

生れ星、名命（なな）を致いたさる

人類は生有るうちは神の御守護ごしゆごで有り、世を去る時は佛の御守護、現世より佛におさまるこのことは沖繩人だけのさんこうでは有りません

世界どうこのお方も基として御心えしなければ人類生じようよりおさまりまで（御名不明）である事でしょう

世去人の佛名をつけ、おさまる。おさまる時もこのようにして、一しゆうきをおさめ、七しゆうきの（七七ヌカ）（七七ヌカをマツル）沖繩では三十三年きのウスウコウを御天地としてその供を出し、先祖くようをとき、代々古くなるにつれ十二代目より親先祖代々を神とまつる事、子孫はつねぎようじとして守つて居る

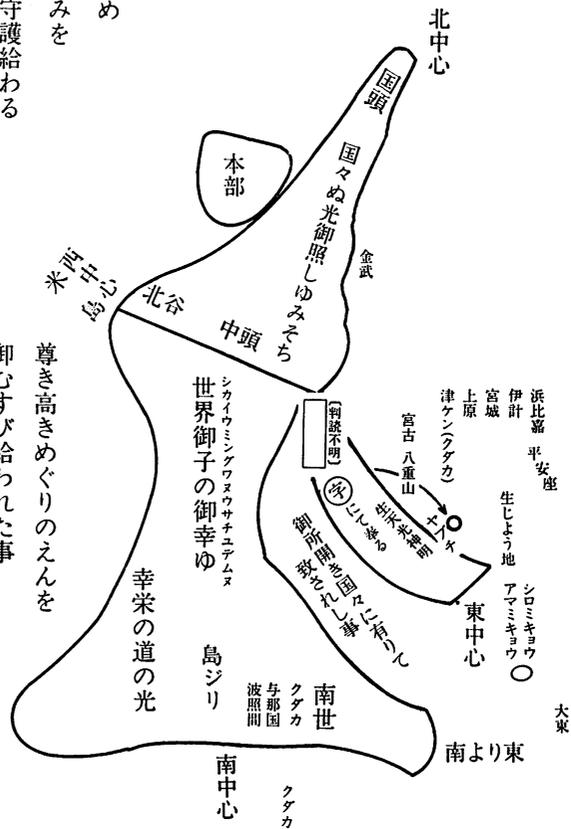


生有る時はこのようにして生ぞん致さるなれば、古代よりつたわりぎようじをおこない居る事はすばらしい人類人身にたがれ自然のほうそくと合された信仰で有るなれど、根元をしないために現ざいになり、若人のしらない所からおくれがちなる所も有り、いろ／＼とまよるがしうじ〔お腕方〕（神司り人にたずる事多し）、おの／＼のもち前事、あたり前の道をにんしきしていただき、このしるべが皆様方の御心にそい、おやくに立ちましたら私も幸に存じます。なほ、くはしく〔知りたいたい〕取きたい方は生天光神明官までおこし下されば御教へ致します。

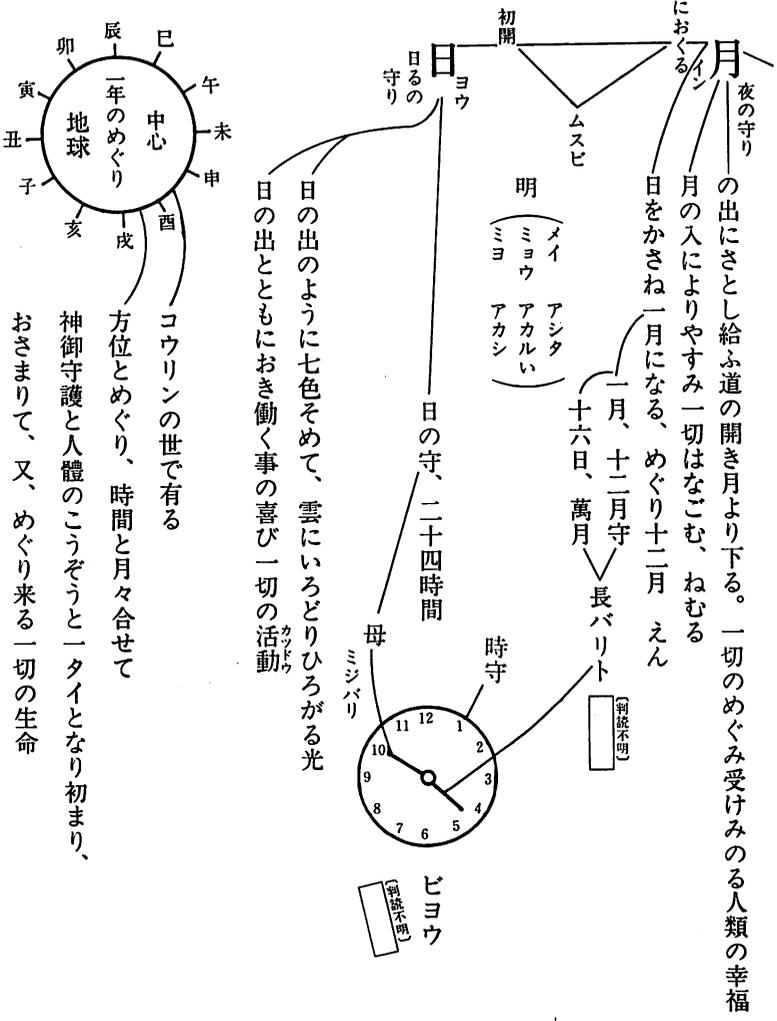
(16) 海の母〔たいめぐり〕 竜宮城開のえん〔宴〕ものどかにひろめを致し給われるものとしんずる 自然の御親神は一切を人類に御与へ下されて居られる事なれば、人類、又、自然御親を尊びうやまる奉る事によりて一切のつみ、けがれは水神の御ふところにて御やしなひ給われる事なりとしんずる。〔アマテラス〕天下大神のおつげのもとにします。二十年前末年にて神、天下りめして、地球を守れ世の人のためにとのおつげのもとに御所を御せつめい給われ、神世の御こうりんの地、沖繩本島の島々を御下給われ、名シヨウウつげられ、天ツヒツギをめして、内地、イセに下り、日向にムカふとおつげあり

字村国に
オクダリ
国めぐり
そして
一切をおひろめ
現世に御かッみを
照しめして御守護給わる

尊き高きめぐりのえんを
御むすび給われた事



めぐり十二月一年のしめくくり、百八の玉開き。





神明のせつめい

月日

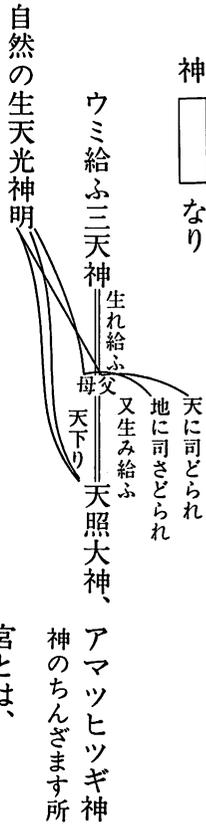
神明とは

(父母をムスビ) 御親神

神

(判読不明)

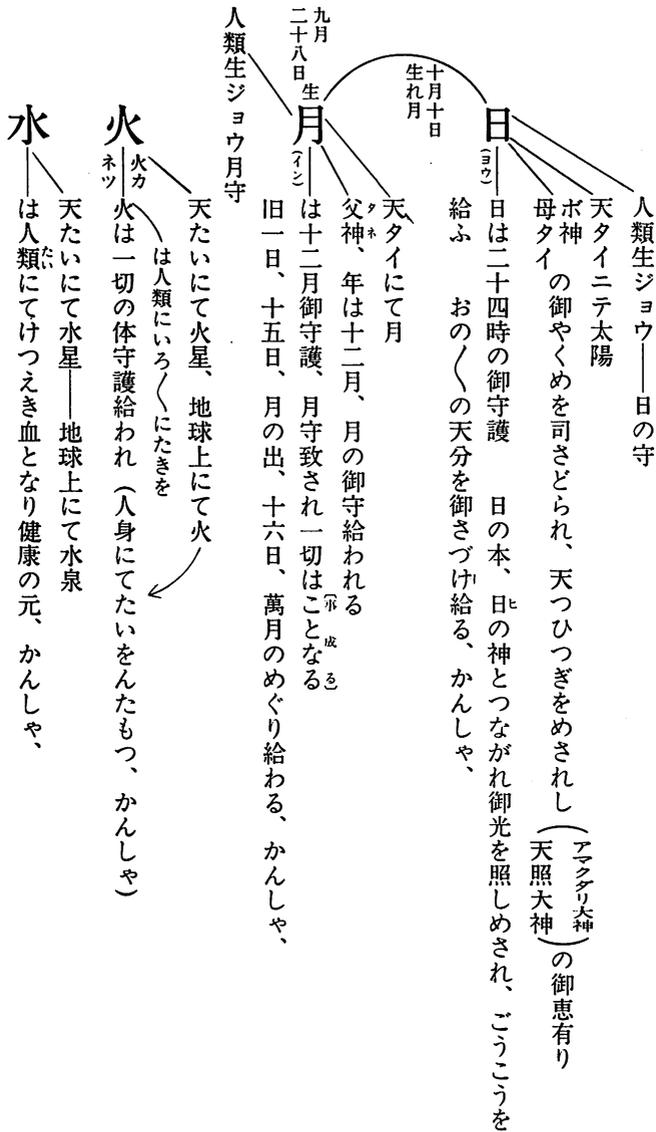
なり



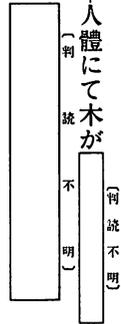
宇宙大自然——生れ給ふ神明

宮とは、かしこどころ奉る御所

(18) 七ヨウ星と人類の生命とのつながり



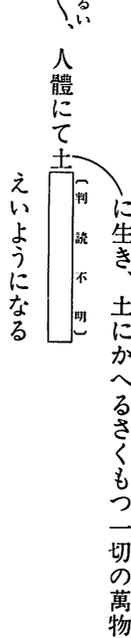
木
天タイにて木星
は地球上にて、木



金
天タイにて、金星
地球上にて金ぐるい

人體にて、テツぶん、かにまんせつ、かんしゃ、

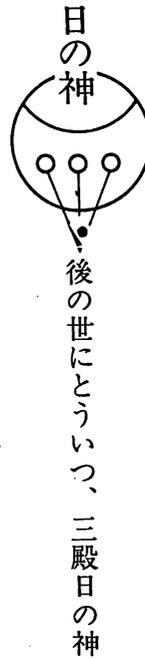
土
天タイにて、土星
地球上にて土、いろく



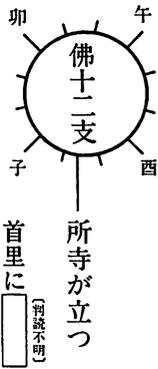
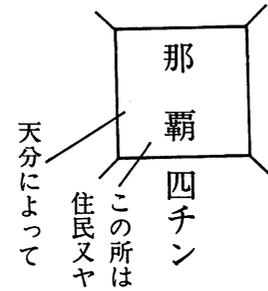
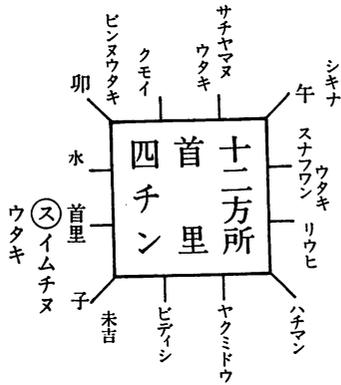
生有る時は日ごよみのごとく、一しゅう間のめぐりをくりかへし〜て生き、そんざい致す。世を去る時は又、一しゅうきく〜をくりかへし、年きほうじ致して、一切は生有る時のつながりを世去りてもなほ一しゅうきかんしゃを(すはれ〜とする事はおさめぎ) 〔判断不明〕 で有る。又生れ来てたましのつなぎ、いきどうしの世で有る事をしるす。

(19) 世のうつりかはりが有りても、後世にだんく 〔判断不明〕 ひきづぎ、根づよくはつて、根元につゆをふくむ事で有り、地球のめぐることく子そんにつたはり、めぐり〜て一切の道のしるべとなる。さらに先祖代々にうけつがれた事は、道はとほうけれども又、近くて、いろく〜と神佛をお奉り致された御所々がこんりゆう致された事

(王国) 首里城中心と致されて



先 首里、国めぐり十二所
一ばんお参致されて居る



十二支が立つ事、年、まいりおのく道天分より致される事、この前に立つてうれし佛寺有り波上寺、普天間寺、金武寺——三寺はつなぎとして立てられし事、判読不明は、中心、北はひだりをむいて居る事なるが、人々は皆めぐりお参り致される事なり

生天光神明宮とは——いっさいをうみせいめいをこしゅうご給わる神一切を生給る生命を御守護神なり

三天神

タカミムスビノカミ
アメノミナカヌシ神
カミムスビノカミ

ウミ
ムスビ
ヒラキ

生かされ、道とほしめぐるうんこう一切、
オサメー又、シンメを立てめされる御親神

御祭神名

シロキヨ
アマミキヨ
天下大神

沖繩言

生天光大神

ミテウヤカシ
三天親神
生み給ふ一切
宇宙大自然うんこう

イザナギ神
天照大神
イザナミ神

ミテンユウ
ウヒイ
タカサ
三天世 日の本中心根元
アマクダリ大神

天地人のムスビセンコウ

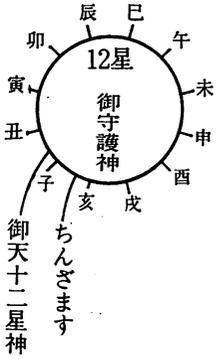
3
+12
15
センコウウ 15本のシムテ

御天三星神 御天地底神

3
+3
9
本のセンコウ

御地十二支
御天十二星神
御佛十二ボサツ

12
12
+12
36
方位
センコウウ 12シムテ



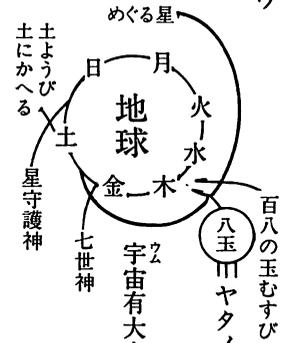
御天十二星神
ちんざます
御天十二星神

12
12
+12
36
+ 9
45

一切神へのウスリ
センコウ
十七本

御天七世、地七世、
底神七世

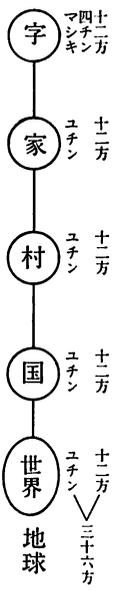
7 × 3 = 21 神
センコウ—七本シムテ



宇宙有大自然と地球一切の星、玉をムスビ神の

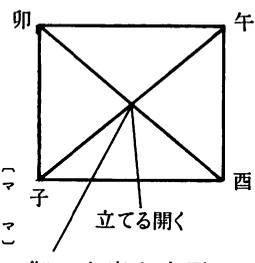
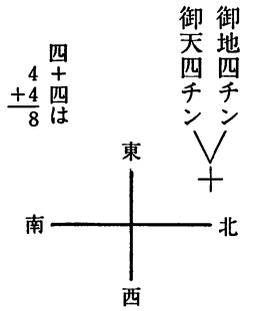
御光 給ふ

御守の 百八玉ムスビ



| | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|-----|--------|--------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|------|
| 合計 | 44 | 36 | 21 | 24 | 15本(3) | 12本(3) | 7本(3) | 24本(1) | 36本(1) | 24(3) | 17(3) | 15(3) | 168本 |
| | | | | +17 | | | | | | | | | |
| | | | | 143 | | | | | | | | | |

百六八
モモムスビセキ

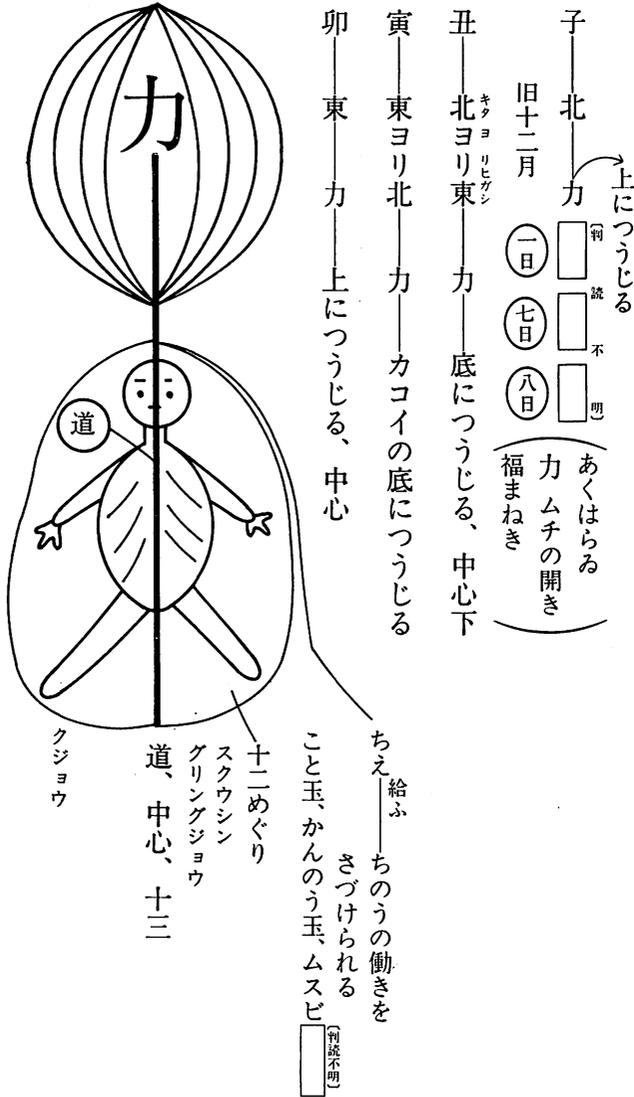


天地人のヒスビ 四十五
十二星のムスビ 三十六
七世のムスビ 二十一
東西南北のムスビ 二十四
ウスリウコウブン 十七

御天四チン、地四チン、日のめぐみ、夜の御守

センコウ—二十四シコウ—
センコウ—三十六本—
方位三十六万三十六神の御守護
天地人のムスビ十五本
高き尊き御事

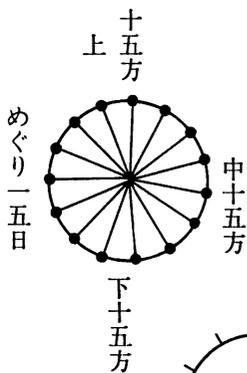
② 力はソコ力^{ソコチカラ}で有る、図のようにしてつうじて人體はことなり^{（事成り）}□き健康なり 神の御恵み給ふ



辰—東ヨリ南—力—中心の下
 己—南ヨリ東—力—中心下
 午—南—力—中心下
 未—南ヨリ西、—中心下
 申—西ヨリ南—中心^{カライ}下 初
 酉—西—力—中心下
 戌—西ヨリ北—中心下
 亥—北ヨリ西—中心下

15
 15
 +15
 45
 12
 12
 +12
 36

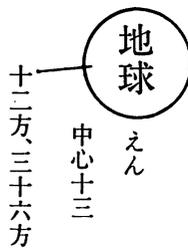
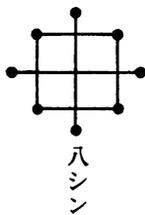
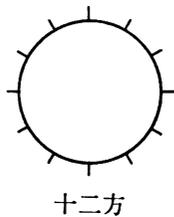
13 11
 13 11
 +13 +11
 39 33



めぐり一五日

16
 16
 +16
 49^三

フシブン
 六コツ



心の中心を
立てる道の光
一切は幸栄へ

オモテ

シンヲタテル心へ

たいせつにする心

心え、正しき清き明るい心

ととのえる心、しもを大ぢにする心

合　　セ、一切は清き明るい心であれば幸福の一生をおくるコトが出来る。

とうとぶ心

愛、

人をうやまふ心

ムスビ、きぼうをのばす事は一切は(事成り)道が開ける。

美を現わす、福神↓喜である。

+

和　　ゴミ、人と合す心はつねに喜びを生む。

信ずるコトは、心がおちつき和合の基となる。

タノシイ、幸福をよぶ、ありがたい。一切が明るくなり力となりのびる。

に保つ事によって、一切を開き吉となす。

心中心

めぐる心
ゾウカスル心へ

清める力心へ

あくを

清める心へ

おさへる心へ

昭和五十年旧二月十八日
卯年　　新三月三十日

ウラ

心えチガイ つねにふへいを思ふ時におこる、まのわざわい。
ハツス 心のすきが有るためまの入りやすくあくトナル。

ウラミ

トキハナス

カナシイ

アラソイ

つねに人をきらい合す心のなき人は、つねにカナシイコトを生む。
しつぼう致した時は一切ははかなく無になる。

ソマツにする心

モノにあたる

ワルさ

ののしる心

けいべつする心

みにくい現われ

ふかくをまねく

うたがう時は一切はくらくなり、道とぎ

され、あくがわく、タンキとなり、あら

そいおこる。

ふわのもととなる。

あくとたんきとすねる心のもち主は一生
をとりかへしのつかないはめにおちる

あくとたんきとすねる心

あくをぬき、たんきをしづめ、すなほになれば、おこないの道の光に照されて、一切は事成事なり、神につうじて心の光を受け、すくわれて人生の幸を給わる

言玉の開きによつてみかゞみを照し、一切につうじ、おこないの世相、現世の現れなるがゆへに、一切は言葉、言玉の初で有る。人類よ、神の御恵みをおろそかに致さずにおのくの心の心みがけ、よつて目をさませ、光主

(23) 七曜星と地球中心の軸立て奉られし生天光神明宮御もんの道しるべ

日ヨウ…日の光一切を生かし給ミタゲわる恵、生命の幸照し給ミタゲわる、二十四時間、日の守り給ミタゲわる、生命の光

ムスビ
イン
明
ヨウ
ムスンデ明るい世界、人類たんじよう（イ、シヨク、ジュウの御守護給ミタゲわる）

月いん…月の出にやみよも照し一切を月めぐりに明ミき心もひらかれる愛のみのり、愛の光、（十二月）一年月

守り

火…火の元は一切〔事成じ〕ことなりひろがる力、火力、人體にてたいおん、**體ねつ**

天上にては火星、地上にて火で有り、一切食あたたまにたきまの道守

水…水はかたちなく自然にそいてながれ行く力 水のながれにそい、心清めよ、わき出するいずみ、スミキツたき

わやかさ 人體水のむでは血の道の力、健康の元

木…木のごとく元しんを底にねづよくはり、芯たんサンにのびる力 木さんのみのりゆたかにかほり、花咲き実をむすぶ力、芯さんの実、そ

美しきムスブ力、人體〔判読不明〕での

金…金のようにかたくつよくとほす力 かためなすいだいなトミをうむハガネスジガネ 人體にてはテツブン

土…のように一切はかたちをかへてもとゞまる力、土の恵の萬物は出入の道ぞ開かれ豊かなり

地球

中心に八玉のめぐり、神世の御守護
人類のそだち所、一切の中心軸で有る。

(24) 一切を生む生を保つ

ひろむ ウマレル 一切をセイイク、御守り
つうじる √ 生きる

日の神 沖繩古神道では日の神、ウカマガナシイに
エンムスビ致されて居る。

一切を御守
御光を給わる

佛地——人——神天

ムゲン 宇宙御守
地球御守
人體御守
中心

御守
おさめ

七御天 国七ヤクバ
スニン七ヤクバ

七底 リツクク 神佛ぬ 子
ニイ

七ヤクバ 五じよう七ヤクバ

生天光神の分神、分佛一タイ神と御つげなり

宇宙はムゲンで有り、カギリ
ナキ御所
地球、地上は現世有ケンなり
地球の底も又ムゲンで有り
かぎりなきめぐりなり

根元

(御世不明)
地球
ムゲン

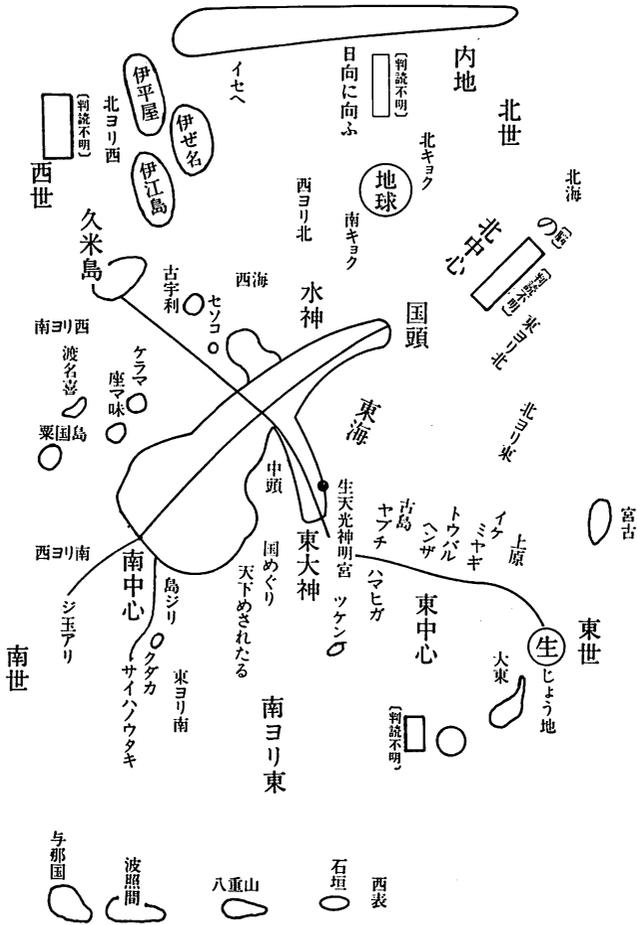
神佛につうじる

(天) (未星)
3 (萬) 3千500円
めぐり 中心 百開

3万3千500

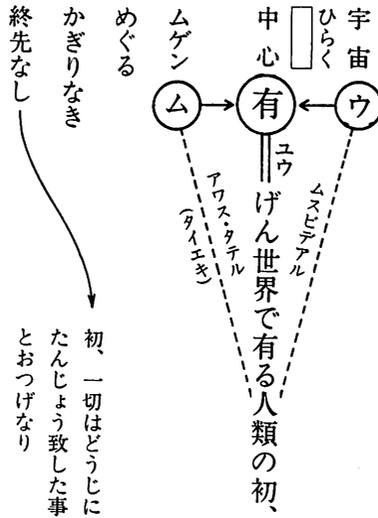
(25) 生天光神は一切を生み給る、せいめいの御光を照しめて一切 判読不明をし、人類生命をつながれ、おやしない給わる御親神で有らせらる。神々のまします御所の中心で有らせらる。又や御佛のます御所の中心で有される事を 判読不明

② 神天下御所



② 生天光神明の尊き道の光、生天光神の明光、我らの胸にさし給ふ^{〔世で〕}、道も明るく美しく、御親の尊き御めぐみを、一切よろづの生命御守護給い、みいつ御光世に照し、人類愛喜糸かけまわる心玉、世界平和の御道びき、さく皆なで学びをひろめ、あほげ尊き神の御光

この世は現われの世で有り一切はうつし世で有る 御かゞみの世で有る事、心正しく直く清く明るくあればしそん榮へユウマチデマデン千代八代



一切よろづの御恵を天上ヨリ下る地上はうるをふ、底よりわきいずる一切萬物の生育によつて有げんの世界はなり立ち、人類は生ぞんざいなり

③ 光の御世の尊さよ、もろ人に心の光ともされて、真実の実はみのり、天地人の幸榮へ、琉球うるまの島に^{カミアマクダ}神天下り、よあけとともに、世界平和の基立てめされ、人類愛喜道しるべ(給ふ)、さく皆なで心を開き、あほげ尊き道の光

海洋はくは世界の集ひ人類平和の道知るべ地球のうるをる海底力

(ミチシヨ) ヒロガル力) ノびる力
(ヒキシヨ) シメル力) チマメル力

人體

〔判証不明〕
ンタンコウゾウ

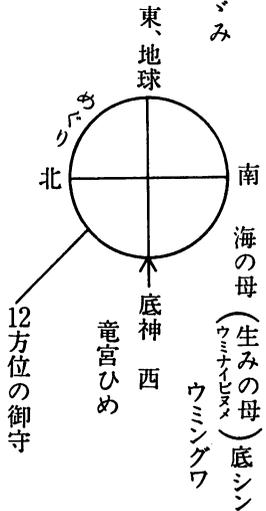
〔判証不明〕
アテタラのびちゞみ

開閉致されて居る

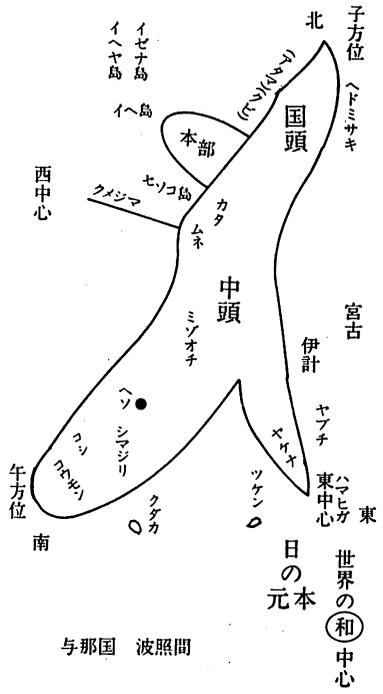
生む力

開く力

おさめる力



(29) うるまの島は、神宝尊き高き道光、海洋博のおひろめは、竜宮城が開かれて、まへや歌へのひとときをすごして、身にしむ琉球の、自然の御恵美わしく、人類愛喜むすびのえん、世界に照す神心の、道びき給ふ平和の光海洋はくにちなんで開く神國、沖繩シメナ



⑧〇 苦楽をのりこえる心に喜を喜びきたる事の神やどられる。しやを開き見さだめる心に一切をやしなす事のこうたくがでて芯によせ来る事な

り、一切の道が開き門えいが立つ事、守りが立てられる事。琉球うるまの島は神佛尊び道の光のさす所、御親の御光照りませる

しうれいの門は真人のえんで有る

無 有——芯で有り
ムエン ユエン 軸で有る
ない ある

琉球うるまの島は神の国、神佛尊び道の光のさす所、御親の御光照し給わる。
守礼の門は真人そのの園そので有り無有の芯、軸で有る。

祭 大 例 宮 明 神 光 天 生

生天光神明の
日の本——中心
尊き道光
光



祝

人類愛喜
世界平和のムスビ
真実のみ
えん

生天光神明天下りめして

御世開き、天軸地上に立て召され

宇宙自然の御親の光

高き尊き御恵の

生命誕生人類の幸

世界のつどいうるまの島に

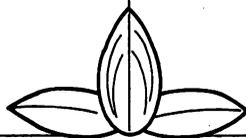
結びのえんを御守り給い

世界に照す

生天光神明の平和の光

仰げ諸人もろともに

千代に八千代に栄へ奉らん



③ 沖繩全図に現われて居るように、沖繩の拝所めぐりもおなじように国頭、中頭、島ジリと三テンノようにめぐりさんばい致す事なり 人體図のようにして頭ぶより中ぶにこし下(シマシリ)に□り、お祈を致し、神所をもうでるしうかんで有り、世の初め国を立てめされた御神、御先祖の道のお開を後せいにのこしてひきつぎまつり、ぎようちをおこたることなく司さどる民ぞくで有る事

日神家守、家庭の拝所、

一切は天ツ神につうじ大自然宇宙

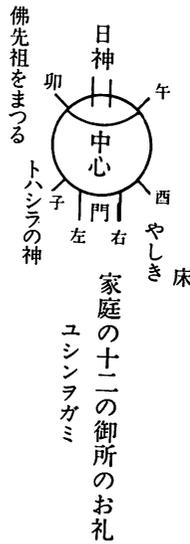
の御親神につうじる事

字ウジガミ 村ウジガミ 神の拝所

沖繩 国、ウジガミ 国ツ神の拝所



めぐり一切の御恵のお礼、国四シン、八シンの道の光を立てて国頭、中頭、島ジリすべてお礼致す事。



川水



一切の字村の十二所のお祈 字四シンラガミ 村四シン、村十二シのお祈

人體守護十柱神

目、ハナ、口、耳 上
チぶさ 中
へッ 下
コウモン(銀玉) ヤクカガニミ
玉 八玉神

目は世の中を見る
かゞみなり、よあけ玉

明玉

手のつめは体内
をみるかゞみなり

健康の元

- 1、頭、クビ、毛、シンゾウ、へッ
- 2、ハナ、胸、カワ、カンゾウ、ボウコウ
- 3、目、オナカ、ニク、チヨウ、シキユウ(ダシソウ)
- 4、口、手、ホネ、イゐ、コウモン
- 5、耳、足、チイ、ハイ、金玉(クガニ玉)

銀玉(ナンジャ玉)

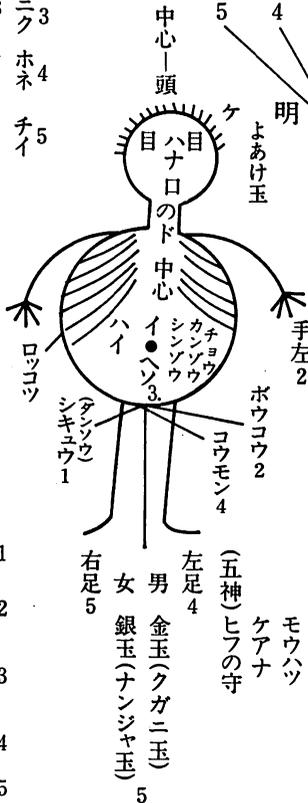
中心
光の玉 3
力の玉 2
心の玉 1
上宮、五體大神玉、内宮、下宮

かんとう玉 4
言の玉 5
明
よあけ玉

- 1 毛
- 2 カワ
- 3 ニク
- 4 ホネ
- 5 チイ

手右 3

- 1 クビ
- 2 胸
- 3 オナカ
- 4 手
- 5 足



手左 2
ボウコウ 2
コウモン 4
モウハツ
ケアナ
(五神)ヒフの守
左足 4
右足 5
男 金玉(クガニ玉)
女 銀玉(ナンジャ玉)